

平成28年11月

インフルエンザの防疫対策について（お願い）

北九州市保健福祉局

1 流行の早期発見と措置

(1) 患者の早期発見

インフルエンザの流行の早期発見と確認は、インフルエンザに対する防疫の有効な決め手となるので、各施設の担任・担当者は、常に、児童及び生徒の風邪による欠席状態を把握しておき、その流行の兆しをつかんでください。

(2) 流行状況の把握

施設長は、新聞、テレビなどの報道に注意して、地域のインフルエンザの発生及び流行状況の把握に努めてください。

(3) 患者に対する防疫措置

学級閉鎖及び休校等の措置をとるときは、施設長、学校（園）医及び保健所長等で事前協議してください。

なお、これらの措置にあたっては、次のことを目安としてください。

ア「登校停止」 病状がひどく、他に感染させるおそれのある者

イ「学級閉鎖」 罹患者（出席者含む）が概ね20%～30%程度になった場合又は、欠席率が平素の欠席率より急速に高くなった場合

ウ「休 校」 学級閉鎖数が増加する傾向にある場合。

エ「学級閉鎖及び休校の期間」

インフルエンザの潜伏期及びウイルス排泄期間の疫学的見地から、概ね1日から5日間。

(4) 流行状況の報告

施設長は、初発とそれに続く流行による学級閉鎖等の措置をとるときは、**当日午後2時まで**に次の事項について、**北九州市保健所保健予防課（FAX：093-522-8775）**に連絡してください。（報告用紙 別紙）

なお、インフルエンザか普通の風邪かの判断にあたっては医師の診断によります。（確認方法・診断書による確認か又は担任教師か養護教諭等が主治医に電話等で確認してください）

ア 施設名、所在地、校（園）長名

イ 全校在籍者数及び学級数

ウ 全校の欠席者数及び罹患登校者数

エ 閉鎖学級（年）名、在籍者数、欠席者数及び罹患登校者数

オ 閉鎖期間

カ 主な症状

キ 今週の学級閉鎖等の届出の有無

2 予防教育の徹底

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。したがって、飛沫を浴びないようにすればインフルエンザに感染する機会は大きく減少します。

インフルエンザの飛沫感染対策として下記の予防法を守ることを心がけるよう児童や生徒に対して指導してください。

- (1) 普段から皆が咳エチケットやくしゃみを他の人に向けて発しないこと
- (2) 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをする
- (3) 手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗う
- (4) 教室等はできるだけ窓をあけ、十分な換気を行う。
- (5) 流水、石けんによる手洗いを励行する。
- (6) 流行期間中は、なるべく人混みへの外出を控えるようにする。
- (7) 具合が悪いときは早めに医療機関を受診し、安静にして休養をとる
- (8) 十分な睡眠とバランスの取れた栄養摂取を心がけ、身体の抵抗力を保つ。

北九州市保健所保健予防課

〒802-8560 北九州市小倉北区馬借一丁目7-1

TEL 093-522-8711

FAX 093-522-8775

北九州市保健所長 様

インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等状況

1 全校の欠席状況

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
学級数													
在籍者数													
欠席者数(A)													
罹患登校者数(B)													
患者(A)+(B)													

2 学級閉鎖()
 の状況(該当する方に○印)
 学年閉鎖()

学級名	年組		年組		年組		年組		年組		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
在籍者数											
欠席者数(D)											
罹患登校者数(E)											
患者(D)+(E)											
閉鎖期間	自 月 日		至 月 日		本日の対応		既に帰宅 ()		(該当に○) 昼から帰宅 ()		通常どおり ()
主な症状											入院患者数 人
今週の学級閉鎖等の有無	有 (届出日) 無										

3 職員の状況

	男	女	合計
職員数			
欠席者数			

4 備考

施設名			
住所			
	TEL	FAX	
連絡先(担当者名)			

※ 学級閉鎖等が決定した場合は、午後2時までにFAXにて、北九州市保健所(TEL:522-8711 FAX:522-8775)へ報告をお願いします。